

【NICU 部門におけるサーベイランスの目的】

NICU 部門における院内感染症（敗血症・肺炎・髄膜炎・腸炎・皮膚炎・その他）とその原因菌（MRSA・MSSA・CNS・緑膿菌・カンジダ・その他）に関して経年的に調査を行い、出生体重別・感染症別・原因菌別の感染症発生状況を評価し、各医療機関には全体集計と比較したデータを返却し、院内感染発生の原因を探る一助とする。

なお、NICU 部門に参加されている各医療機関では、ここに掲載した公開情報のほかに、自施設と全参加医療機関のデータとの比較をした還元情報を、参加医療機関専用サイトからダウンロードできます。

【解説】

全国の NICU 保有の 68 医療機関から 2009 年 1 月～12 月の各 NICU における感染症データが送付され、解析した。総入院数は 14073 名で感染症発症者は 635 名（4.5%）であった。その内訳として出生体重別の入院数は超低出生体重児（～999 g）774 名、1000～1499 g 児 1076 名、1500 g 以上の児は 12223 名で、あった。この調査の対象となった超低出生体重児や 1500 g 未満児の入院数は日本全国の出生数の約 2 割強に相当している。

感染症発症頻度は小さい体重群順に 195 例（25.2%）、95 例（8.8%）、345 例（2.8%）であった。やはり超低出生体重児が人工換気療法や中心静脈栄養などの濃厚な治療を受ける期間が長いために感染率が高いものの、2007 年・2008 年に比べて改善傾向にある。一方、1000～1499g の児の感染症発症率は過去 2 年間 7%台であったが、2009 年は 8.8%と増加している。

原因菌別には MRSA が従来どおり高く 125 例（19.7%）、次いで MSSA 75 例（11.8%）、CNS 66 例（10.4%）、緑膿菌 24 例（3.8%）、カンジダ 24 例（3.8%）、その他の菌 160 例（25.2%）で菌不明が 161 例（25.4%）であった。経年的には、MRSA が減少傾向にあり、MSSA と CNS が増加傾向にある。

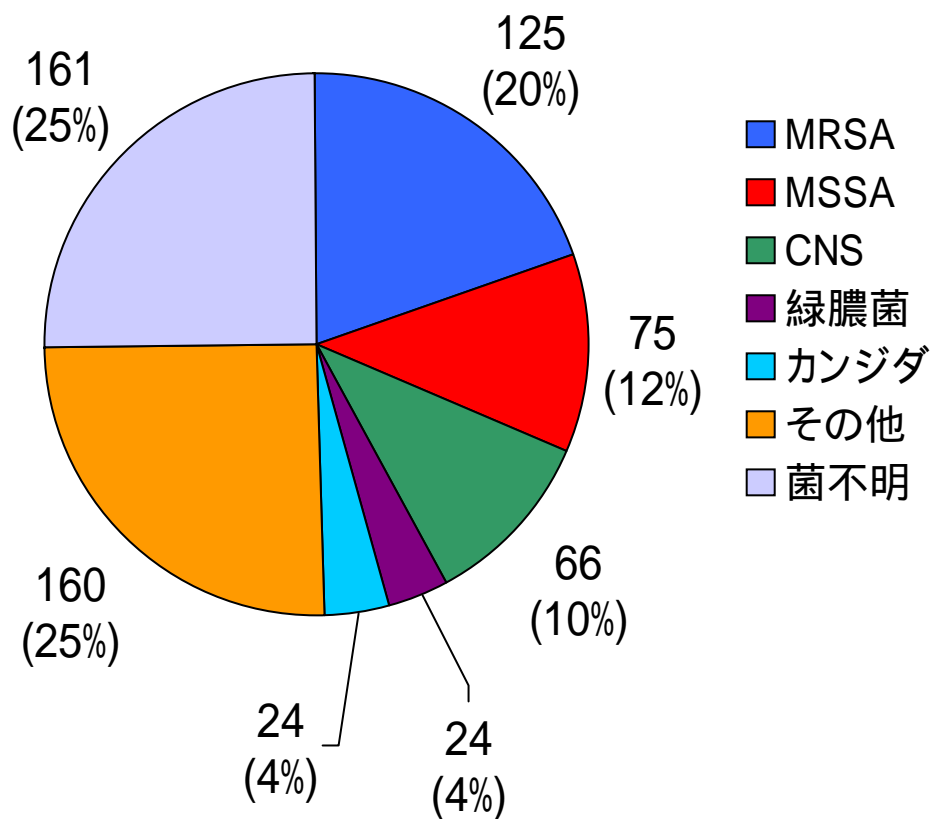
感染症別では肺炎 163 例（25.7%）、敗血症 152 例（23.9%）、皮膚炎 87 例（13.7%）、腸炎 33 例（5.2%）、髄膜炎 14 例（2.2%）、その他が 186 例（29.3%）であった。昨年より肺炎、敗血症、皮膚炎が増加し、その他の症例は減少している。

表1 体重別入院患児数・
感染症発症患児数

| 体重 | 入院患児数 | 感染症発症 患児数 | 感染症 発生率 |
|---------------|--------------|--------------|-------------|
| ～999g | 774 | 195 | 25.2% |
| 1,000g～1,499g | 1076 | 95 | 8.8% |
| 1,500g～ | 12223 | 345 | 2.8% |
| 合計 | 14073 | 635 | 4.5% |

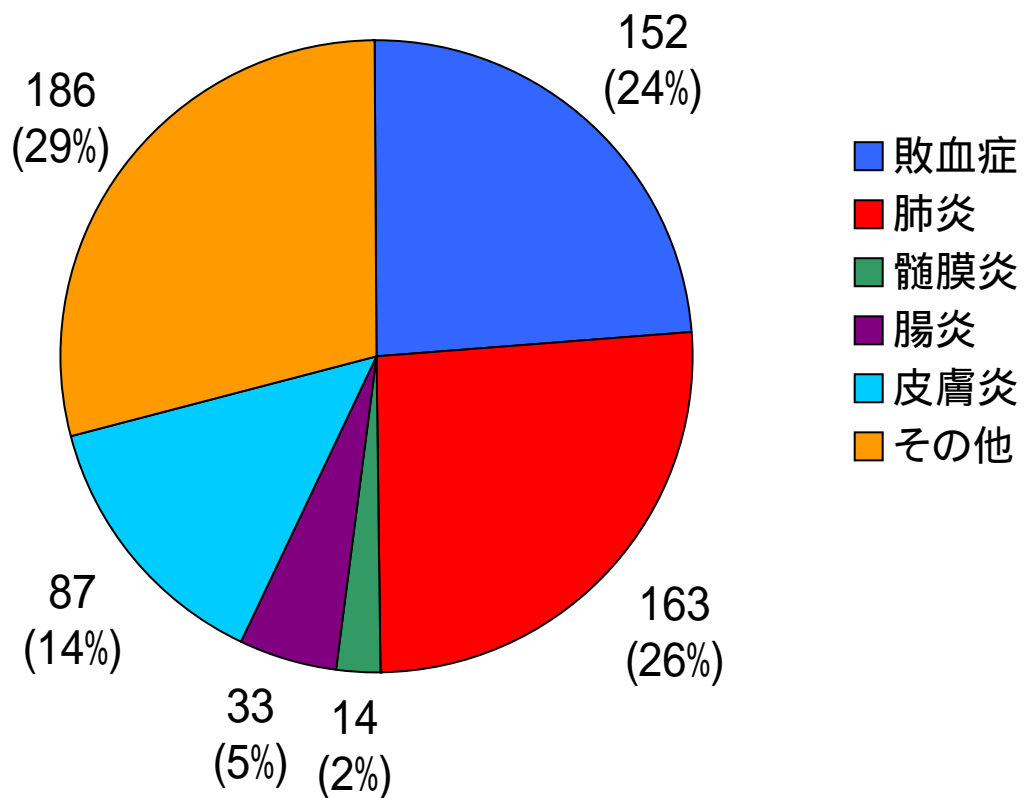
(集計対象医療機関数:68)

図1 菌種別感染症発症患児数 (N = 635)



(集計対象医療機関数:68)

図2 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 635)



(集計対象医療機関数:68)